

# GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

## 1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

|    |    |                 |
|----|----|-----------------|
| a. | 分類 | 産業競争力基盤強化商品     |
|    | 対象 | 電気自動車等          |
| b. | 分類 | GI基金支援技術を活用した製品 |
|    | 対象 | 次世代型太陽電池の開発     |

## 2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

|      |  |
|------|--|
| a.   | 電気自動車等   |
| 対象行動 | 宣言対象製品の調達・購買   |
| 概要   | 当社でリースする社用車について、支店等が車種を選択する際に、EVには社内補助を行い、EVの選択を促すことでスコップ1、2の削減を図っています。<br>また、支店等に打ち合わせにEV等で来場されたお客様への充電の無償サービスなど、EVの普及に向けた環境整備にも取り組んでいます。 |

|      |   |
|------|---|
| b.   | 次世代型太陽電池の開発   |
| 対象行動 | 宣言対象製品の調達・購買  |
| 概要   | 「グリーンイノベーション基金事業」のペロブスカイト太陽電池に係る研究開発の採択事業者と連携し、住宅市場における調達環境が整った段階で、積極的にペロブスカイト太陽電池の採用を進めます。 |

## 3. サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

## 4. 温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

|                   |  |
|-------------------|--|
| a.                | 電気自動車等   |
| 削減対象              | Scope 1+2  |
| 目標年度              | 2030年度   |
| 基準年度              | 2013年度   |
| 目標削減率             | 75%  |
| 削減目標における選択対象の位置づけ | リースする社用車のEVを一定割合とし、再エネ電力で充電することで、スコープ1、2において、2013年度比で排出削減率75%（2030年度目標）に直接的に寄与します。 |

|                   |   |
|-------------------|---|
| b.                | 次世代型太陽電池の開発   |
| 削減対象              | Scope 3（カテゴリ11）   |
| 目標年度              | 2030年度  |
| 基準年度              | 2013年度  |
| 目標削減率             | 55%   |
| 削減目標における選択対象の位置づけ | ペロブスカイトとシリコンをタンデムにした太陽電池が実用化され、導入することができた場合、従来のシリコン単独の太陽電池よりも高い発電効率を実現できるため、2030年度のカテゴリ11の排出削減に寄与します。 |

## 5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

|                  |  |
|------------------|--|
| a.               | 電気自動車等   |
| 目標年度             | 2030年度   |
| 定量的目標            | 100%   |
| 選択対象に関する定量的目標の概要 | 2030年度までに、自社でリースする社用車の電動化率※を100%にすることを目標にしています。<br>※テナントビルに入居している支店等もあり、充電インフラの整備が困難である場合もあるため、電動車をEV（電気自動車）、燃料電池自動車、プラグインハイブリット車、ハイブリッド車としています。 |

|    |             |
|----|-------------|
| b. | 次世代型太陽電池の開発 |
|----|-------------|

|                  |  |
|------------------|--|
| 目標年度             |  |
| 定量的目標            |  |
| 選択対象に関する定量的目標の概要 |  |

#### 6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

|      |      |
|------|------|
| 適用範囲 | 自社単体 |
|------|------|

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2026年3月26日

積水ハウス株式会社  
環境推進部長 井阪由紀